公益社団法人日本バリュー･エンジニアリング協会

2022年度 事業報告書

（2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで）

【 概　況 】

2022年度は、前年度に引き続き、新型コロナウィルス感染拡大の影響を大きく受ける年となりました。弊会では感染拡大防止に努めると共に、各種イベント、セミナー、会合等をオンラインまたはオンデマンド方式で行い、状況によっては一部対面方式とのハイブリッド方式を採用しました。

当初は感染拡大防止のために始めたオンライン/オンデマンド方式でしたが、慣れてきますと、出張等の移動時間が節約できることや、いつでもどこでも何度でも視聴できるといった利便性が高く評価されるようになりました。

働き方もテレワークが常態化し、効率的に仕事が出来ることがわかってきましたので、こうした状況をニューノーマルとして捉え、新たな時代に適合させるという姿勢で前向きに取り組んでいきたいと考えております。

さて、本会では、2018年度から「社会に新たな価値を生み出し、多くの社会的課題を解決するためにＶＥを新たなステージへと進めていく」ことを基本テーマに掲げ、2022年度においては「持続可能な価値を創造する次世代の育成」を重点課題として取り組んで参りました。

折しも文部科学省では、「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」に取り組んでおられます。これは、社会人を対象に、創造性、感性、デザイン性、企画力といった能力の育成を目指す事業で、東日本では東京工業大学を中心に、西日本では京都大学を中心に、次の時代に新たな価値を生み出す人材育成プログラムの開発が進められているとのことです。これらのプロジェクトの成果をモデルとして、各大学がそれぞれの個性や資源を生かし、社会人のリスキリングに貢献できるようになることが期待されているようです。

弊会におきましても、ＳＤＧｓの達成を視野に入れ、持続可能な価値を創造できる次世代、未来のイノベーターを育成できるように、講座事業、資格認定事業などの見直し、アップデートを積極的に図っていきたいと考えております。

引き続き、皆様方のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げる次第です。

以 上

1. 講　座

1）バリューデザインスクールのオンライン開催

	3時間で学ぶＶＥの基本	１日で体験する ＶＥワークショップ	製品改善 ワークショップ
開催日	5月17日	5月24日	7月 4日～ 5日
受講者	7名	7名	13名

	機能の整理法	ファシリテーション入門	ＶＥで活用する アイデア発想
開催日	6月22日	7月 7日	7月15日
受講者	7名	7名	7名

	ＶＥの原点的思考 （機能分析中心）	企画段階のＶＥ	経営者を納得させる ＶＥ提案書の書き方
開催日	7月21日	7月28日	8月 2日
受講者	7名	6名	1名

	ＶＥリーダー受験対策 １日セミナー	ＶＥ活動で求められる ファシリテーションの実践	開発設計のＶＥ
開催日	8月19日	8月24日・8月30日・9月7日	8月25日～26日
受講者	11名	6名	8名

	調達・購買機能の役割と スキル	ソフトＶＥの進め方	調達・購買活動の要諦と 組織能力
開催日	9月13日	9月15日～16日	9月20日
受講者	7名	（ 中　止 ）	5名

	ＶＥブラッシュアップ 基本編	3時間で学ぶＶＥの基本	ＶＥを組織的に適用する ためのマネジメント
開催日	9月27日	10月 4日	10月 6日
受講者	14名	4名	6名

	１日で体験する ＶＥワークショップ	ＶＥブラッシュアップ 短文記述編	ＶＥブラッシュアップ 論述編
開催日	10月11日	10月14日	10月21日
受講者	2名	17名	17名

	ＶＥリーダー受験対策 １日セミナー	製品改善 ワークショップ
開催日	11月28日	12月15日～16日
受講者	26名	9名

2) その他研修会等の開催

⑴ 通信講座の開講

① ＶＥの基礎

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、ＶＥの基礎を学び、ＶＥリーダー（ＶＥＬ）資格認定試験の受験資格を取得できる機会を設けること等を目的に開講し、107名が受講。

② はじめての企画・開発メソッド　～ 0 Look ／ 1st Look ＶＥ ～

ＶＥの基礎を学んだ人、ＶＥＬ有資格者等を対象に、企画・開発業務にＶＥを活用する方法を学ぶ講座を開講し、1名が受講。

⑵ 西日本支部（中四国地区）でのＶＥ塾の開講

地区名	メンバー	内　容
広　島	（ 中　止 ）	製品ＶＥや作業ＶＥを実際に役立たせるための進め方やポイント。

⑶ ＣＶＳ（Certified Value Specialist）によるＶＥ技術者育成支援【「ＣＶＳフォーラム委員会」のオンライン開催】

	開催日	出席者	主　な　内　容
第169回	4月22日	10名	①「ＣＶＳフォーラム」2021年度総会の振り返り ② ＳＤＧｓ絵本の作成について、など
第170回	5月30日	12名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ② ＶＥ技術者の育成を図るための活動について、など
第171回	6月24日	11名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ② ＶＥ技術者の育成を図るための活動について、など
第172回	7月25日	10名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ②“ＡＩを活用したＶＥのやり方”の研究について、など
第173回	8月23日	10名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について、など
第174回	9月21日	11名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について、など
第175回	10月21日	9名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ②『ＣＶＳフォーラム』2023年度研究企画の募集について、など
第176回	11月21日	9名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ②『ＣＶＳフォーラム』2023年度研究企画の募集について、など
第177回	12月20日	8名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ②『ＣＶＳフォーラム』2023年度研究企画の募集について、など
第178回	1月18日	10名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ②『ＣＶＳフォーラム』2022年度総会について、など
第179回	2月14日	10名	① ＳＤＧｓ絵本の作成について ②『ＣＶＳフォーラム』2022年度総会について、など
総　会	3月23日	19名	① 出席者の自己紹介・近況報告 ② グループ討議とその結果発表、など

⑷ 経営者フォーラムの開催

	第１回	第２回
開催日	9月 2日	3月14日
会　場	アルカディア市ヶ谷	アルカディア市ヶ谷
テーマ	体験設計 ～ ビジョンから 優れた経験価値の創出へ ～	体験設計 ～ ビジョンから 優れた経験価値の創出へ ～
参加者	（ 中　止 ）	15名

⑸ 開発設計業務でのＶＥ・原価企画等に関する講座のオンデマンド配信

	開発設計業務での コストエンジニアリング	企画・構想段階の 機能と品質の決め方	ＤＦＡ（ Design For Assembly ）体験
開催日	10月11日～28日	10月11日～28日	12月 5日～23日
受講者	3名	1名	2名

	Modular Design 実践手順と活用ツールの体験	企画から生産までの 原価企画実務上の留意点	コストテーブル 作成・活用の体験
開催日	1月10日～27日	2月 6日～24日	2月 6日～24日
受講者	2名	4名	2名

⑹ 公共機関でのＶＥ技術者育成支援

コロナ禍での活動休止を経て３月10日に開催された、官公庁・　地方自治体による「全国ＶＥ活動推進研究会」の全国会議にＣＶＳ資格を有するＶＥ専門家をアドバイザーとして派遣し、公共分野でのＶＥ活用を働き掛けた。

⑺ 教育機関におけるＶＥ導入促進と普及

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科主催の課題解決型長期企業実習「プラクティカム」に協力団体として登録。同研究科の院生に管理技術による改善指導の手法を学習する機会を上海ＶＥ協会の協力を得て９月～1月に提供。5名が参加し、1月23日に成果発表会を開催して修了。

2. 資格認定

1）資格認定制度の整備・体系化

⑴ 米国ＶＥ協会から“改定後のＣＶＳ資格認定制度運用”に関する情報を収集。

⑵ 日本におけるＣＶＳ資格の主旨や位置づけ等を2024年度から日本独自の形から米国ＶＥ協会が定めた本来の姿へと戻し、国際資格に相応しい制度運営をするために検討・準備。

⑶ 前記の制度改定によってＣＶＳを国際資格と明確に位置づけるにあたり、希望するＣＶＳに日本国内の上位資格であるＶＥＳの終身登録を2023年度から行う予定とし、事前申請の受付を開始。28名からの申請を受付済み。

2）資格認定試験の実施

試験名	実施日	会　場	受験者	合格者
第52回　ＶＥＬ認定試験（前期）	4月18日 ～ 7月31日	全国約200箇所	399名	325名
第53回　ＶＥＬ認定試験（後期）	9月 1日 ～ 2月28日	〃	1,546名	1,231名
第43回　ＣＶＳ認定試験	11月19日	東　京	3名	3名
第25回　ＶＥＳ認定試験	12月 3日	東京･名古屋･大阪	51名	33名

※ ＶＥＬについては、上記のほか中国でも実施し、26名が受験・合格。

3）「バリュー・エンジニアリング（ＶＥ）」誌の編集・発行・配信

⑴「ＶＥ誌編集委員会」のオンライン開催

	開催日	出席者	主　な　内　容
第90回	7月 6日	5名	① 2022年度前期の編集実績と検討課題について ② 2022年度後期の編集企画と検討課題について、など
第91回	1月24日	10名	① 2022年度後期の編集実績の報告について ② 2023年度の企画について、など

⑵ ＶＥ誌の発行・配信

第317号	第318号	第319号	第320号
5月 1日	8月 1日	11月 1日	2月 1日

4）更新登録の実施

⑴ ＶＥＬ、ＶＥＳ、ＣＶＳ登録者の更新登録（ＶＥＬ、ＶＥＳは終身登録を含む）を実施。

⑵ ＶＥＳについては、新型コロナウイルスの影響でＶＥ関連イベントの多くが中止・延期となり、ＶＥ関連活動に該当する行事の開催数が減少した状況に鑑み、2022年度の更新について必要な更新要件ポイントを30点から20点に緩和。

3. 講　習

1）「第55回ＶＥ全国大会」の開催

配信期間	11月 1日～11月30日【30日間】
視聴回数	4,506回（全27コンテンツの総再生回数）
内　　容	協会顕彰表彰式、講演 5 件、ＶＥ活動優秀賞受賞報告 3 件、ＶＥ実践論文・ＶＥ活用事例 9 件、「ＳＤＧｓとＶＥの接点」5 件、「ＶＥ活動のサポートツール」5 件

2）地域ＶＥ大会の開催（西日本支部 関西地区、中四国・九州地区）

	第54回 ＶＥ関西大会	第65回 西日本ＶＥ大会
開催日	2月17日	9月30日
会　場	会場とオンラインの同時開催	オンライン開催
参加者	131名	80名
内　容	➢ フォーラム　1件 ➢ 講演　2件 ➢ 事例紹介　3件 ➢ 過去講演紹介　4件 ➢ 過去事例紹介　8件	➢ 講演　3件 ➢ 事例紹介　2件
オンデマンド配信	3月 1日～15日	10月 3 日～17日

3）ＶＥフォーラムのオンライン開催（西日本支部 関西地区）

	ＶＥフォーラム	ＶＥサマーフォーラム
開催日	5月27日	8月26日
参加者	104名	48名
内　容	➢ 講演　2件 ➢ 事例紹介　3件	➢ 事例紹介　3件 ➢ 参加型ミーティング　1件
オンデマンド配　信	6月 1日～ 8日	9月 1日～15日

4. 研究開発

1）「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

⑴「現場の生産性向上と技能者の働きがいの両立化を目指すシステム」の研究

	開催日	出席者	主　な　内　容
ｷｯｸｵﾌ	4月15日	4名	① 新研究会設置の経緯 ② 研究会の方向性、実施内容について
第 1回	5月17日	4名	① 研究対象領域の確認 ② テーマに関連する論文の紹介
第 2回	6月15日	4名	① 検討事項の整理・確認
第 3回	7月 6日	4名	① 関連論文の紹介 ② 研究の対象領域の整理 ③ 構想案について
第 4回	7月19日	4名	① 構想案について ② 論文発表について
第 5回	8月23日	5名	① 発表論文の概要確認 ② 現場作業を支援するシステムの紹介
第 6回	10月 7日	5名	① 学会の研究発表大会での発表内容について ② 企業でのアンケート調査実施について
第 7回	11月 1日	5名	① トータルＴＰＳ勉強会 ② アンケート調査項目の検討

⑴「現場の生産性向上と技能者の働きがいの両立化を目指すシステム」の研究（つづき）

	開催日	出席者	主　な　内　容
第 8回	12月 2日	6名	① アンケート調査の依頼と実施状況 ② 調査実施後の展開
第 9回	1月19日	5名	① アンケート調査の進捗状況 ② データの分析方法と仮説
第10回	2月 9日	6名	① アンケートの分析試行 ② データの分析方法・分担・スケジュール
第11回	3月16日	5名	① 各担当よりアンケート分析状況の報告 ② 質疑応答・意見交換

⑵ ＶＥ国際大会への参加による、海外諸国研究動向についての情報収集

6 月 5 日～8 日にアリゾナ州グレンデールで開催されたＳＡＶＥ（米国ＶＥ協会）Value Summit に参加し、発表や講演を通じて海外におけるＶＥ実践･研究等に関する情報を収集。また、米州、アジア、ヨーロッパ、中東地域のＶＥ関係者とコロナ禍でのＶＥ活動状況に関して意見を交換。

2）各支部での実務的研究の推進

⑴ 機能別部会での研究活動

① 東日本支部に次の機能別部会を設置し、実務的な研究活動をオンラインで推進。

部会名	メンバー	主　な　内　容
ＶＥ情報交流部会	11名	初めて部会活動に参加する人を対象とし、ＶＥの推進組織や教育体制などについて広く情報交換を行う場。
ＶＥ推進部会	22名	ＶＥ推進上の課題について参加各社のノウハウをもとにした成功のためのポイントについての研究。
マーケティング部会	9名	マーケティング手法の理解や新たな価値を創造するためのツール開発と検証。
Ｒ＆Ｄ部会	10名	価値を創造する手法としてＶＥ手法を進化させるための関連手法を含めた探究と研究開発。
ものつくり部会	22名	独自技術をもつ企業とのオンラインでの情報交流を通じ、ものつくりの最新動向や本質を学ぶ。
資材調達部会	23名	調達全般についての問題提起と情報交換を行い、ＶＥの活用と業務上の課題解決につなげる。
社会インフラ部会	16名	「企業ケース検討会」と「建設ＶＥ研究会」による社会インフラに関わる研究。

② 活動報告会の開催

上記部会及びスキルアップ研究会の活動報告会をオンラインで開催し、各部会及び研究会での取り組み内容や活動成果の一端を紹介。

開催日	3月 6日
参加者	155名
内　容	部会及び研究会の活動報告、特別講演

⑵ 専門研究会での研究活動

東日本支部及び西日本支部（中部地区・関西地区）に次の専門研究会を設置し、実務的な研究活動をオンラインで推進。

① 東日本支部

研究会名	メンバー	主　な　内　容
ＶＥ初心者のためのスキルアップ研究会	10名	若手やＶＥ初心者層を対象に、実践上の悩みや困りごと、課題を取り上げ、“ＶＥを使えるようになる”ことを目指す。

② 東海地区

研究会名	メンバー	主　な　内　容
中部建設ＶＥ研究会	25名	地域の実情にマッチした建設ＶＥのあり方と「2 時間ＶＥ手法」のオンラインでの活用方法の検討。

③ 関西地区

研究会名	メンバー	主　な　内　容
つかいやすいＴＲＩＺ研究会	20名	ＶＥ等を含めた管理技術としての幅広い視点によるＴＲＩＺの普及・活用法。
経営革新を生み出す活き活きＶＥ研究会	89名	各社のＶＥ推進や実践方法等の情報をもとにした、ＶＥの効果的な普及方法と活用策。
ＶＥツール研究会	25名	ソフトＶＥ等、過去に開発されたＶＥ手法の見直しと実践。
サービス領域でのＶＥ適用方法研究会	7名	第３次産業での共通領域であるサービス領域において効果的にＶＥ活動を進める方法。
原価企画の問題解決研究会	15名	原価企画推進上の問題の解決策。
テアダウン研究会	13名	発注部門でのテアダウン法の活用法。

3）プロジェクト形式での研究・開発【Sustainable Value Design の研究】

“モノとサービスの結合により社会に好循環を生み出す価値設計”の方法論を構築し、持続可能な社会づくりに広く貢献することを目的に、「ＳＶＤ研究会」でＳＤＶ手法を開発し、その背景と手法の流れをまとめ、ＶＥ誌318号（2022年８月号）に投稿論文として掲載。

また「第55回ＶＥ全国大会」では、“ＳＶＤ手法（持続可能な社会を目指す Value Design）を用いた学校・コミュニティにおける課題解決の進め方”について、メンバー全員の対談形式で発表。

5. 表　彰

1）協会顕彰の実施

⑴「審査・認定委員会 顕彰審査部会」の開催

	開催日	出席者	主　な　内　容
第１回	書面表決	4名	① 協会顕彰（ＶＥ活動優秀賞）の審査 ② 協会顕彰（ＶＥ経営者賞・普及功労賞）の審査

⑵ 受賞者及び受賞企業・事業所の表彰

次の各賞の表彰を「第55回ＶＥ全国大会」で実施。

ＶＥ経営者賞	① 斎藤　保 氏	㈱ＩＨＩ 相談役（前・本会会長）
普及功労賞	① 神田 之裕 氏	リコーテクノロジーズ㈱
	② 小林 信之 氏	元・ＴＤＫ㈱
	③ 藤原 秀行 氏	ナブテスコ㈱
ＶＥ活動優秀賞	東京ガス㈱ 殿	
	㈱ＩＨＩ 殿	
	首都高速道路㈱　更新・建設部 プロジェクト企画課 殿	

2） ＶＥ実践論文の審査・表彰

⑴「審査・認定委員会 論文審査部会」の開催

	開催日	出席者	主　な　内　容
第１回	6月27日	8名	① 応募論文の審査、など
第２回	8月25日	5名	① 修正論文の審査、など

⑵ 入選論文の発表・表彰

次の論文の発表を「第55回ＶＥ全国大会」で実施。

入選論文	① 中村 大志 氏	首都高速道路㈱
	② 佐藤 尚吾 氏 他	パイオニア㈱
	③ 門柳 雅昭 氏	三菱電機エンジニアリング㈱
	④ 内村 浩之 氏	㈱ミツバ
	⑤ 古賀 桃子 氏	三宝商事㈱

6. 情報資料

1） 研究成果の資料化

① ＤＸ導入 成功のためのシナリオ
（東日本支部 ものつくり部会編）　3月 6日 発行

2） ＶＥ関連資料の発行及びＶＥ教材等の販売

⑴「第55回ＶＥ全国大会」ＶＥ実践論文集及び資料集（電子版）　11月 1日 発行

⑵ ワークシートやアイデア発想ラベル・機能定義カード、ＶＥＬバッジ等、ＶＥの実施や推進のためのアイテムを販売。

3） ＶＥ関連書籍・資料・教材等の販売

ＶＥの学習及び研究、普及促進に資するため、新・ＶＥの基本等のＶＥ関連書籍を仕入れて販売し、また本会が発行するＶＥ関連資料・教材等を販売。

4） ＶＥ研究論文等のネット販売

電子化した過去のＶＥ研究論文及びＶＥ実践論文を協会Web Site内に開設したＶＥ研究論文検索・購入サイト「ＶＥ論文navi」で販売。

7. VE活用支援

1）日本国内における出前講座・オンライン講座の実施

№.	開催日	受講者	内　容
1	5月19日～20日	18名	ＶＥの基礎
2	5月20日	15名	ＶＥの基礎（オンライン開催）
3	7月14日～15日	16名	ＶＥの基礎（オンライン開催）
4	7月21日～22日	21名	実践ＶＥ
5	9月 1日	7名	ＶＥの基礎（オンライン開催）
6	9月 1日、15日、29日	14名	実践ＶＥ
7	9月 6日～ 7日	8名	ＶＥの基礎（オンライン開催）
8	9月 8日～ 9日	18名	ＶＥの基礎
9	9月 9日	24名	管理技術入門（オンライン開催）
10	10月 5日～ 6日	18名	ＶＥの基礎
11	10月11日	3名	ＶＥの基礎
12	10月17日～18日	19名	ＶＥの基礎
13	10月19日～20日	10名	企画開発ＶＥ
14	10月25日～26日	20名	ＶＥの基礎
15	11月～ 2月（全５会合）	16名	実践ＶＥ（オンライン開催）
16	11月17日～18日	11名	ＶＥの基礎
17	11月18日	10名	ＶＥの基礎（オンライン開催）
18	12月 8日～ 9日	17名	ＶＥの基礎
19	1月18日	10名	調達・購買（オンライン開催）
20	1月19日～20日	8名	開発設計段階のＶＥ（オンライン開催）
21	1月30日～31日	18名	ＶＥの基礎（オンライン開催）
22	2月 1日	10名	調達・購買（オンライン開催）
23	2月13日～14日	12名	開発設計段階のＶＥ（オンライン開催）
24	3月13日	26名	改善マインド入門
25	3月14日	28名	改善マインド入門
26	3月15日	27名	改善マインド入門

2）日本国内における指導講師の派遣

依頼に応じて２社にＶＥ指導講師を派遣し、ＶＥ導入又は実践の個別指導を実施。

3）海外でのＶＥ教育支援

⑴ 上海ＶＥ協会を通じて、中国のネットワーク機器関連メーカーにＶＥとテアダウンを指導。プロジェクトの実践についても３件指導。

⑵ 中国の自動車関連メーカーに、ＶＥとモジュラーデザインの研修講師を派遣。

⑶ 上海ＶＥ協会から、来年度はさらにプロジェクト案件数が増加するとの報告と要請を受け、実践指導者やセミナー講師となるＶＥ資格者及び企業ＯＢ人材の募集を開始。

⑷ 外国人スタッフのいる国内企業向けに、“サービス分野向け（ソフトＶＥ）”の研修を２日間開催。日本語での講義であったが英語でのフォローを行い、英訳の教材・テキストも提供。

4）ＶＥワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定

ＶＥワークショップ・セミナー2 件の認定を実施。

8. 会員相互研鑽

1）見学会・講演会等の開催（東日本支部）

	オンライン見学会	オンライン見学会	オンライン交流会
開催日	5月24日	9月 8日	11月25日
会　場	横河マニュファクチャリング㈱ 甲府事業所	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	㈱ＪＥＰＬＡＮ
参加者	43名	28名	21名

	オンライン交流会
開催日	2月 8日
交流先	南デザイン㈱
参加者	77名

9. 広報活動

1）メールマガジンによる情報発信

メールマガジン「ＶＥ情報メール」を毎月１回発行し、ＶＥや本会に関する最新情報を積極的に発信。また、ＶＥ大会･ＶＥフォーラム等の案内や参加者募集などＰＲにも積極的に利用。

2）協会Web Site等による情報発信

⑴ 協会Web Siteを運営し、ＶＥや本会に関する最新情報を積極的かつタイムリーに発信。

⑵ 協会Web Site内の一コンテンツとしてブログを運営。ＶＥや本会に関心を持っていただくことを目的に、職員が日常の出来事等とＶＥを関係付けた形に纏めて発信。最新ブログのアップについては、Facebookでも告知。

⑶ ＳＮＳ導入の検討を視野に、東日本支部部会のTwitterアカウント開設を支援。

3）インフラメンテナンス国民会議への参加

国が支援し、自治体、企業、研究機関、ＮＰＯ等で構成されているインフラメンテナンス国民会議に会員として参加し、社会資本の維持管理に関する情報を収集。

4）他団体との連携による広報

ＶＥ大会及びＶＥセミナーの開催にあたり、次の団体から後援及びＰＲ支援をいただいた。

① 日本インダストリアル・エンジニアリング協会
② ＮＰＯ法人日本ＴＲＩＺ協会
③ 一般社団法人日本システムデザイン学会
④ 上海ＶＥ協会
⑤ 公益社団法人大阪府工業協会
⑥ 公益社団法人京都工業会
⑦ 公益社団法人兵庫工業会

5）アジア圏を中心とした海外向け情報発信の拡充

⑴ 米国ＶＥ協会とアジア地域との連携強化を目的とした、アジア各国代表による企画委員会にメンバーとして参画。

⑵ Value Engineering Learning Session への参加

	第２回	第３回	第４回
開催日	7月 1日	9月30日	12月 9日
開催方法	オンライン	オンライン	オンライン
参加者	約40名（10か国）	35名	（ 不　明 ）
内　容	インドの事例発表、など	インドの事例発表、など	東南アジア拠点の共同研究プロジェクトに携わるイギリスの講演

10. 会　　議

1）定時総会の開催

開催日	6月17日
出席者	74名
議　案	① 2021年度計算書類の件 ② 役員選任の件 ③「役員報酬規程」一部改定の件

2）理事会の開催

	開催日	出席者	主　な　内　容
第38回	5月17日	12名	① 代表理事（会長）・業務執行理事の業務執行状況報告 ② 2021年度の事業報告書及び計算書類について ③ 第12期定時総会の招集について、など
第39回	6月17日	13名	① 会長（代表理事）、常任理事及び業務執行理事の選任について ② 事務局長の任命について、など
第40回	9月 2日 開催予定 （⇒「決議の省略」という方法に切替 ）		① 2022年度顕彰者の決定 ② 委員長の委嘱 ③ 入会の承認、など
第41回	3月14日	10名	① 2023年度の事業について ② 2023年度の収支予算について ③ 2023年度の資金調達及び設備投資について、など

3）「本部企画委員会」のオンライン開催

	開催日	出席者	主　な　内　容
第50回	3月 1日	8名	① 各支部・各委員会の 2022 年度概況と 2023 年度予定について ② 本会の2023年度計画について

11. 会員数の異動

		会員数		入　会	退　会	増　減
		2022年 4月 1日	2023年 3月31日			
正 会 員	団　体	68	66	2	4	－ 2
	個　人	31	34	4	1	＋ 3
賛助会員	団　体	78	77	4	5	－ 1
	個　人	76	74	5	7	－ 2
合　　計		253	251	15	17	－ 2

12. 2022年度 事業報告　附属明細書

2022年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第 3 項に規定する「事業活動の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書は作成していない。

以 上